

ガザ州緊急無償資金協力・引き渡し式及び食糧支援活動の視察訪問

2016年1月5日

在モザンビーク日本大使館

1 昨年12月19日、水谷駐モザンビーク日本国大使は国際連合世界食糧計画（WFP）を通じたモザンビークへの緊急無償資金協力の引き渡し式に出席し、食糧支援活動を視察しました。

2 本支援は、南部アフリカ地域における干ばつ被害によってもたらされた食糧不足に対する支援として、日本政府がWFPに対し500万ドルを供与し、そのうち270万ドルがモザンビークに割り当てられたものです。水谷大使は、住民らの手によって行われている排水工事の視察や、日本政府の支援によって供与された水タンク併設工事の視察を通じて、干ばつ被害克服のために尽力する地元住民や地元政府関係者との交流や意見交換を行いました。

3 引き渡し式には、マネンテ WFP モザンビーク事務所所長やガザ州農業局長をはじめ、モザンビーク政府職員、メディア関係者、そして地元住民等、およそ30名が参集しました。関係者の挨拶概要は以下のとおりです。

（1）セテンプロ地区長

長期間、降雨不足によって農作物が育たない等、非常に厳しい状況に直面しており、更に今後3ヶ月は暑さが続き、引き続き陰しい道のりが予想される。本来ならこの時期は次の農作に向けた種子の確保を行っているべきだが、今年はまず生きるための食糧を手に入れることが先決。このような状況の中、日本政府及びWFPより食糧援助を受けることができ、感謝を申し上げる。引き続き、パートナーたちと、長期的な解決策になるであろう種子の確保も含め、努力していきたい。

（2）水谷大使

本日はこうした機会を作っていただき感謝したい。WFPを通じて日本国民がモザンビーク国民への連帯感を示すことができたことは、非常に嬉しく、誇りに思う。本日は灌漑設備工事等を視察することができて、我々にとっても大変貴重な機会となった。干ばつ被害により、皆さんの生活は苦しいものだと認識しているが、現代の世代が努力をすることは、我々の子供の世代の繁栄に直結する。日本として、引き続きモザンビークのみなさんが安心して生活できるような協力や教育・人材育成等の分野での支援を続けていく所存。皆で力を合わせて、強靱な社会を作っていただきたい。

4 引き渡し式の模様は、当国テレビ及び新聞等により全国的に報道され、我が国の支援に対する関心及び評価が高い様子が伺えました。

(了)



引き渡し式で挨拶する水谷大使



食糧集配活動支援



日本支援物資実物
(とうもろこし)



食糧援助支援活動(排水工事)視察